

【震災遺産】津波被災パトロールカー(双葉31号車)



we support!
RQ
災害教育
センター

MONTHLY

「東北に黒龍を送ろう! 大作戦しんぶん」改め
復興支援
「すけさきた」
「しんぶん」

「すけさきた」とは
宮城県登米市あたりの言葉で
「ボランティアに来たよ」という
意味である

APRIL
11
2018



震災遺産 津波被災パトロールカー(双葉31号車)

ベース車両 トヨタ・クラウン

この車両は、平成15年に双葉警察署に配備されたパトカーです。以来富岡町や双葉郡内で住民や地域の安全を守る多くの業務に携わり、走行距離は29万2千kmを超えました。

平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震発生後、双葉警察署から増子洋一警視(当時41歳)と佐藤雄太警部補(当時24歳)がこのパトカーで富岡町仏浜地内に急行し、町民をはじめ沿岸部の住民の避難誘導を行いました。避難した住民の中には、駆け付けたこのパトカーと冷静に避難誘導をしていた2人の警官の姿を鮮明に覚えている人が多くいました。

その後パトカーは2人の警察官とともに津波に遭い、車両は子安橋のたもと付近にて多量の土砂が流入した状態で発見され、増子警視は地震から約1ヶ月後に陸地から30km離れた沖合で発見されました。また、佐藤警部補は行方不明となったままです。

震災以後、このパトカーを訪れ、手を合わせる人や献花する人々が増え、自然と祭壇が設けられ、2人の警察官にメッセージが寄せられるようになりました。

このパトカーは、震災直後の初動対応として津波が近づく緊迫した時間の中、使命感と勇気を胸に多くの住民を守るために職務を全うした人達がいたこと、そして平穏な町をおそった地震や津波の威力のすさまじさを示すものであり、東日本大震災を象徴する歴史的な資料として貴重なものです。

この震災遺産を通じて震災を後世に伝えるために町民とご家族、そして福島県警察、富岡町とふくしま震災遺産保全プロジェクトが共働してこの場所に設置しました。

平成27年3月

「津波被災パトロールカー」は、福島県双葉郡の双葉警察署に保存展示されており、多くの方が花を手向けに訪れています。
傍の立て札には、「あなた方の崇高な警察魂と数々の功績は警察官の縁として永久に忘れません。これからも私たちが見守ってください」と記されています。

「震災遺産(震災遺構)」:震災によって壊れた建物など、被災の記憶や教訓を後世に伝える構造物。2011年3月11日に発生した東日本大震災の被災地では、津波で被災した建物などの保存を求める声があがり、県や市町村で検討が続けられている。若手県陸前高田市の「奇跡の一本松」のように、すでに復元・保存されたものもあるが、つらい経験を思い出したくないという被災者への配慮や、多額の保存費用の問題などから、解体が進められている遺構も多い。こうした状況を受け、2013年、根本匠復興大臣は、国による支援のあり方を取りまとめる方針を示している。(知恵蔵mini・2013-11-1)